



報道関係者各位

2026年5月18日(月)  
NPO 法人日本ブラインドサッカー協会

---

## 体験型ダイバーシティ教育プログラム「スポ育。」2025年度集計 9,387人が体験し、累計体験者数が22万6千人に！

---

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会（以下、JBFA）は、小・中・高校生を対象とした体験型授業「スポ育」の2025年度（2025年4月～2026年3月）分の集計を終え、287件、9,387人が参加したことをお知らせします。参加者数は2010年のプログラム提供開始から累計で22万6千人を超え、2026年3月末までに5,863件、226,065人が体験しました。「スポ育」は、スポ育パートナー企業のサポートにより原則無料で実施しています。

### ●「スポ育」とは

パラリンピック競技であるブラインドサッカーの要素を用いた、体験型ダイバーシティ（多様性）教育プログラムです。1件あたり90分を基本とし、子どもたち全員が視覚に障がいのあるブラインドサッカー選手と触れ合いながら、視覚をアイマスクで閉じた状態でさまざまなワークを行います。子どもたちに障がい者への理解促進や、コミュニケーションの重要性、チームワークの大切さ等の学びを提供しています。



JBFAは一つでも多くの学校にプログラムを提供できるよう、2022年からはブラインドサッカーチームのある地域でチームの母体会社とスポ育実施の業務委託契約等を締結しています。スポ育パートナーである参天製薬株式会社や株式会社ダイセルと連携し、パートナー企業の社員が講師を務めるスポ育も実施をしています。また、2025年は、新潟県内と島根県内で初めてスポ育を開催しました（島根県はオンライン座学型を実施）。

JBFAはスポ育パートナー企業とともに、一人でも多くの子どもたちにスポ育プログラムを提供できるよう、国内外、地域を問わず、今後も積極的に本プログラムの普及に取り組んでまいります。

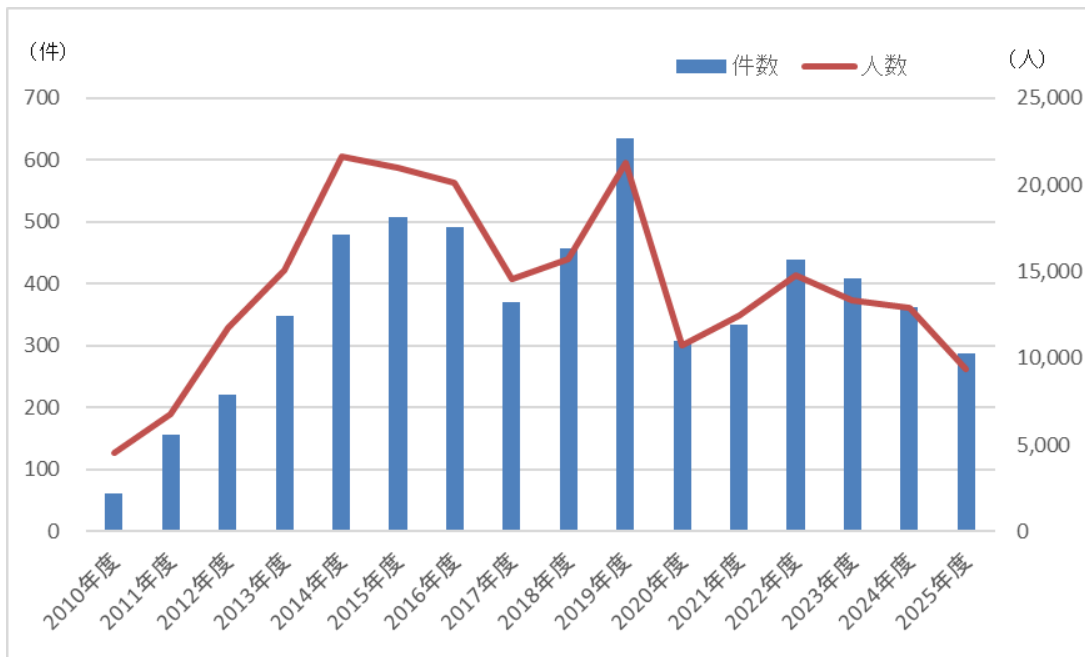
### ●体験型ダイバーシティ教育プログラム「スポ育」申込概要

- ・内容：体験型ダイバーシティ教育プログラム（事前学習、体験学習、事後学習）
  - ・実施地域：全国（海外はオンライン開催のみ）
  - ・対象：小学校4年生～高校3年生までの学校またはスポーツ団体 ※小学3年生は9月から実施可能
  - ・プログラム詳細およびお申し込み：<https://supoiku.b-soccer.jp/>
- ※現在7月～8月の枠を受付中です。その後の開催分のお申し込み受付は、随時上記スポ育HPに掲載してまいります。

※2025年度の「スポ育」活動実績、過去実施件数、体験者数の推移および体験者の声は2ページ目以降に記載しています。

<スポーツ実施件数および体験者数の推移>

期間	年度	件数	人数
2010年9月～2011年3月	2010年度	61	4,509
2011年4月～2012年3月	2011年度	157	6,782
2012年4月～2013年3月	2012年度	220	11,754
2013年4月～2014年3月	2013年度	347	15,081
2014年4月～2015年3月	2014年度	479	21,617
2015年4月～2016年3月	2015年度	508	21,008
2016年4月～2017年3月	2016年度	491	20,130
2017年4月～2018年3月	2017年度	371	14,549
2018年4月～2019年3月	2018年度	458	15,736
2019年4月～2020年3月	2019年度	634	21,272
2020年4月～2021年3月	2020年度	307	10,736
2021年4月～2022年3月	2021年度	333	12,488
2022年4月～2023年3月	2022年度	439	14,788
2023年4月～2024年3月	2023年度	408	13,347
2024年4月～2025年3月	2024年度	363	12,881
2025年4月～2026年3月	2025年度	287	9,387
累計		5,863	226,065



2025年度の「スポ育」活動実績

<コンテンツ別>

期間		学校数 (校)	※ ( ) は単位	
			件数 (コマ)	受講人数 (人)
2025年4月～2026年3月 (2025年度)	スポ育・対面体験型	131	283	9,215
	スポ育・オンライン座学型	2	4	172
	総計	133	287	9,387

<月別>

※（ ）は単位

年	月	件数(コマ)	受講人数(人)
2025年	4月	1	30
	5月	4	157
	6月	31	1,043
	7月	20	674
	8月	7	252
	9月	42	1,385
	10月	26	905
	11月	30	962
	12月	35	1,134
2026年	1月	29	895
	2月	37	1,175
	3月	25	775
2025年度 総計		287	9,387

<学年別>

※（ ）は単位

学年	受講人数(人)
小学3年	619
小学4年	4,567
小学5年	902
小学6年	296
中学1年	428
中学2年	1,877
中学3年	447
高校1年	58
高校2年	40
高校3年	19
特別支援学級	96
その他	38
2025年度 総計	9,387

<地域別>

※（ ）は単位

都道府県	市区町村	件数(コマ)	受講人数(人)
青森県	弘前市	2	62
茨城県	守谷市	2	61
埼玉県	さいたま市	2	80
	坂戸市	2	77
	産能市	3	139
神奈川県	横浜市	11	341
	川崎市	5	162
千葉県	印西市	6	175
	習志野市	1	44
	成田市	4	108
	船橋市	1	30
東京都	葛飾区	7	204
	江戸川区	3	121
	江東区	4	117
	新宿区	29	869
	世田谷区	1	12
	台東区	2	50
	大田区	2	98
	中央区	5	180
	中野区	3	80
	板橋区	6	235
	品川区	47	1,749
	文京区	58	1,742
	豊島区	2	55
	墨田区	2	60
	目黒区	2	75
	練馬区	1	15
	国分寺市	2	63
	清瀬市	3	81
	町田市	5	145
	調布市	13	412
	東村山市	3	92
	日野市	5	163
	武蔵村山市	1	59
立川市	3	89	

都道府県	市区町村	件数(コマ)	受講人数(人)
栃木県	那須塩原市	3	84
静岡県	三島市	4	126
新潟県	妙高市	2	70
石川県	金沢市	15	515
愛知県	名古屋市	1	43
兵庫県	伊丹市	3	97
	赤穂郡	2	90
島根県	松江市	1	75
広島県	広島市	6	157
	府中市	2	85
2025年度 総計		287	9,387

## ●スポ育参加者、先生からの感想

実際にやってみると想像以上に難しかったけれど、周りの人からの声で安心できて、声が大事なことだとわかりました。指示を出す時も、「あっち」「こっち」のような言葉だとわかりにくいことがわかったので、具体的でわかりやすく伝えられるようにしていきたいです。

<東京都中2>

視覚に頼らず音や仲間の声に耳を傾けることで、チームワークや信頼の大切さを改めて実感しました。競技の奥深さだけでなく、「思いやり」や「相手の立場を想像すること」の重要性にも気付かされ、大変有意義な時間となりました。この経験を今後の生活にも活かしていきたいと思います。

<東京都中2>

視覚障がい者は辛くて大変だと思っていましたが、楽しいこともたくさんあることを知りました。ブラインドサッカーのようなスポーツがあることで、障がいを持った方々がコミュニケーションを取ることができたり、楽しいことを実感できることがあることを知りました。

<栃木県小4>

目が見えなくても工夫をすればサッカーができることを知ってびっくりしました。ボールの中に鈴を入れたり、みんなで声をかけ合ったりして協力しているところがすごいと思いました。障害がある人もない人も一緒に楽しめるところがよかったです。これからは、家族や近所の人にもブラインドサッカーの魅力を伝えたいです。

<石川県小4>

子供達へのプラスの声かけ（すばらしい、いいですね など）や、答えを教えるのではなく、子供達に考えさせ、自分達に答えを出させるように導くような説明をしていただき、子供達にとってとても貴重な経験となりました。サッカーの試合中や試合以外で、子供達のコミュニケーションがより具体的に相手のことを考えた伝え方に少しずつですが、変化しています。

<千葉県サッカークラブコーチ>

アイマスクをつけて歩いたりボールを蹴ったりする体験と、アイマスクを付けた相手に指示を出したり誘導したりする体験、つまり相手の身体感覚を想像したり、一方では相手の指示の声に頼りながら自らの身体感覚を操作したりするという経験ができたため、身体感覚の次元での交流(身体的共感)ができたのではないかと思います。

スタッフの方々も終始笑顔で優しく、丁寧に説明してくださったので、我々教員はもちろんのこと、子どもたちも安心して取り組んでいたように感じます。

貴重な経験をいただき、誠にありがとうございました。

<神奈川県小学校教諭>

講師の方の説明がはっきりしており、指導や声かけも適切で、子どもたちを動かすことがとても上手だと感じました。思いきり蹴ってしまうことなど、活動の中で予想される児童の姿についても事前に指導していただき、安心して体験活動に取り組むことができました。また、体験活動が豊富で、講師の方の実際のプレーの上手さを間近で見ることができたことも子どもたちにとって大きな刺激になりました。

「相手を意識する」「相手のことを考える」といったねらいが明確で子どもにもよく伝わっており、2時間という短い時間の中でも、集団としての成長や変化を実感することができました。

<新潟県小学校教諭>

## ●「おも活」事業との連携

JBFA では 2010 年 9 月からスポ育を開始し、2015 年秋からは公益財団法人日本ケアフィット共育機構と事業提携し、「おも活」（おもいやり活動の略）も実施しています。「おも活」とは、学習指導要領にも述べられている、心のバリアフリーに欠かすことのできない、“障害の社会モデル”の考えを学ぶ授業です。

身近な生活から社会の困りごとについて考え、「環境が作り出す困りごと」と「相手の立場」という両面から気づき、考え、行動する好循環を促しています。

一社会が作り出している障害と、それを解消するためにはどうすればいいのかを、人の多様性を知りながら自ら考え気づく、そしてお手伝いが必要であればお声がけをして、おもいやりの気持ちを行動に移す一

自分たちにもできることがあると知ることで、子どもたちの自主性を促すプログラムで、小学校のほか、クラブチームや学童で行う学習としても実施しても効果的です。2025 年度はスポ育を実施した学校・スポーツのクラブチーム向けに、1 件（92 名受講）実施しました。

## ●公益財団法人日本ケアフィット共育機構について

日本ケアフィット共育機構は、超高齢社会の到来をふまえ、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指し、高齢者や障害者を含むあらゆる人々が安心して外出できる社会を目指して活動しています。主に、人の多様性を受け入れ、違いを尊重したり、相手の立場になって考え行動ができる『サービス介助士』の普及を行っています。近年はブラインドサッカーや車いすバスケットなどパラスポーツ大会において、年齢や障害の有無に関わらずスポーツの感動を共有できるよう、介助ボランティアとしての活動も推進しています。

公益財団法人 日本ケアフィット共育機構 <https://www.carefit.org>

サービス介助士 <https://www.carefit.org/carefit/>

### 本件に関するお問い合わせ

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会 広報コミュニケーション室

E-mail: [media@b-soccer.jp](mailto:media@b-soccer.jp) 電話番号：03-6908-8907

協会ウェブサイト：<https://www.b-soccer.jp>

住所：〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 ペアーズビル 3 階